

やちご通信 やすらぎと笑顔の学校



北九州市立八児中学校

文責 学力向上推進委員会

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。
 この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
 学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。
 なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

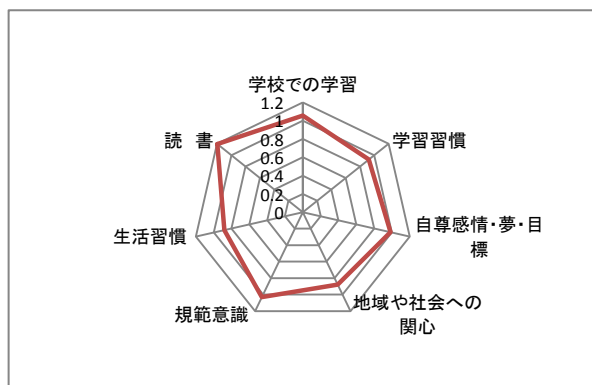
1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリー	全国平均との比較	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	下回っている	<ul style="list-style-type: none"> 国語への関心・意欲・態度は全国平均を上回っており、目的に応じて資料を効果的に活用する問題についても全国平均を上回っている。 漢字を書く問題の平均正答率が低く、無解答率が全国平均よりも高い。
国語B	下回っている	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度より、正答率が上がっている。記述式の問題形式の平均正答率はほぼ全国平均程度である。また、無回答率がすべての設問で全国平均を下回っている。 書く能力は全国平均を上回っているが、読む能力に課題がある。
数学A	同程度である	<ul style="list-style-type: none"> 数と式の領域の技能についての問題の正答率が、全国平均を上回っているが、言葉の意味や定義を問う問題の正答率は全国平均よりも下回っている。 ほとんどの設問で無回答率が全国平均を下回っている。
数学B	下回っている	<ul style="list-style-type: none"> すべての領域において、記述式の正答率が全国平均を下回っており、無解答率が高かった。しかし、与えられた情報を読み取る問題は全国平均を上回った。 計算はできるが、数学的に表現したり説明したりすることに課題がある。

2 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要

- 起床時間がほぼ決まっており、朝食を毎日食べているが、就寝時間は一定していない生徒が多い。
- 「学校の規則を守っている」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」とほぼ全生徒が回答しており、規範意識が非常に高い。
- 読書が好きな生徒が80%を超えており、図書室の利用の頻度の高さや八児タイムでの朝読書の成果が表れている。
- 学校の宿題をしている生徒は96%を超えており、各教科で継続的に出されている課題の成果が表れている。その反面、自分で予習、復習をしている生徒は半数程度であり、自発的な学習が身についていない。
- 「自分にはよいところがある」と60%の生徒が回答し、全国平均を下回った。自尊感情の高揚が大きな課題である。

本校と本市の対全国比(全国を1とする)



3 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 授業でアクティブラーニングの視点に立った話し合い活動を活発に行い、自分の意見をきちんと書いて表現する場面を意識して取り入れる。
- 見通しを持たせる工夫や視覚的な情報提示の工夫など、ユニバーサルデザインをとり入れた授業を教師集団が複数回お互いに参観することで、各教科の普通の授業改善に取り組む。
- 質の高い「めあて」「まとめ」「振り返り」を意識した授業を精励し、生徒の思考力、判断力、表現力の向上を意識した授業改善に取り組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 宿題のスタンダード化
 - ・自学自習ノートを提出させ、点検を行う。
 - ・週末課題や毎日のミニドリルプリントなど、教科の特性に合った宿題を継続していく。
- 全国学力・学習状況調査の課題と取組を、HPや学校だより、PTA理事会等で保護者に説明し、家庭と連携して協力体制を整える。